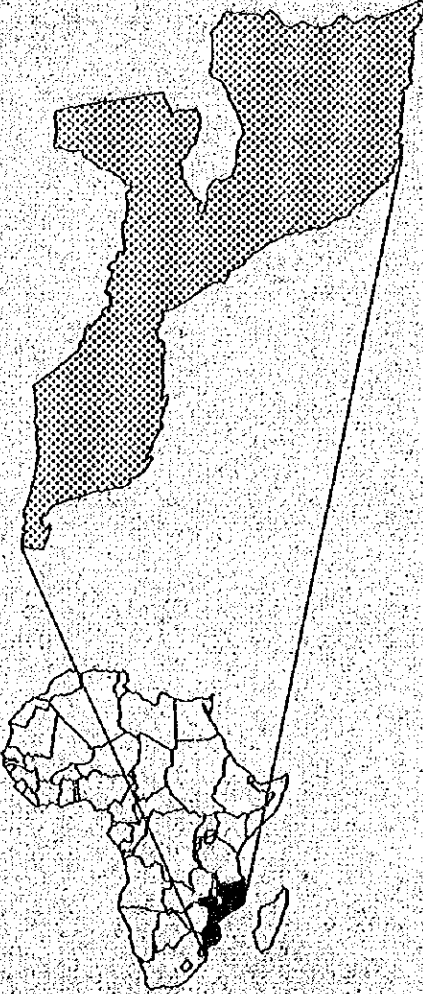


平成4年度

JICA 国別協力情報

モザンビーク

REPUBLIC OF MOZAMBIQUE



国際協力事業団

JICA
521
36
PL
LIBRARY

国際協力事業団

24021

JICA LIBRARY



1099197(4)

2402/

作成にあたって

近年開発途上国が抱えている開発課題及び開発ニーズは、開発途上国の経済発展の度合い、経済的・社会的な諸条件及び自然環境の状況等により、ますます多様化・複雑化してきています。こうした状況の中、より効率的・効果的な援助を実施するためには、被援助国の真の開発課題と開発ニーズを的確に把握することが必要となるとともに、被援助国の開発計画及び国際機関を含めた他の援助機関の援助動向と我が国の援助との整合性を図ることが重要となってきています。このため国際協力事業団（JICA）は、援助対象国のうち81ヶ国について、それぞれ当該国の経済・社会の概要、国家経済社会開発計画の概要及び我が国をはじめとする主要援助供与国、国際機関の援助実績とその動向等を調査し、本書を取りまとめました。（平成3年度に41ヶ国、平成4年度に40ヶ国を作成）

本書は、JICA職員及び派遣専門家等が我が国の国際協力の方向性を考え、個々の協力案件を実施するための基礎資料として、また各種調査団等の携行資料として活用されることを願うものです。

ここに、本書作成にご協力いただいた関係各位にあらためて感謝申し上げます。

平成4年7月

国際協力事業団

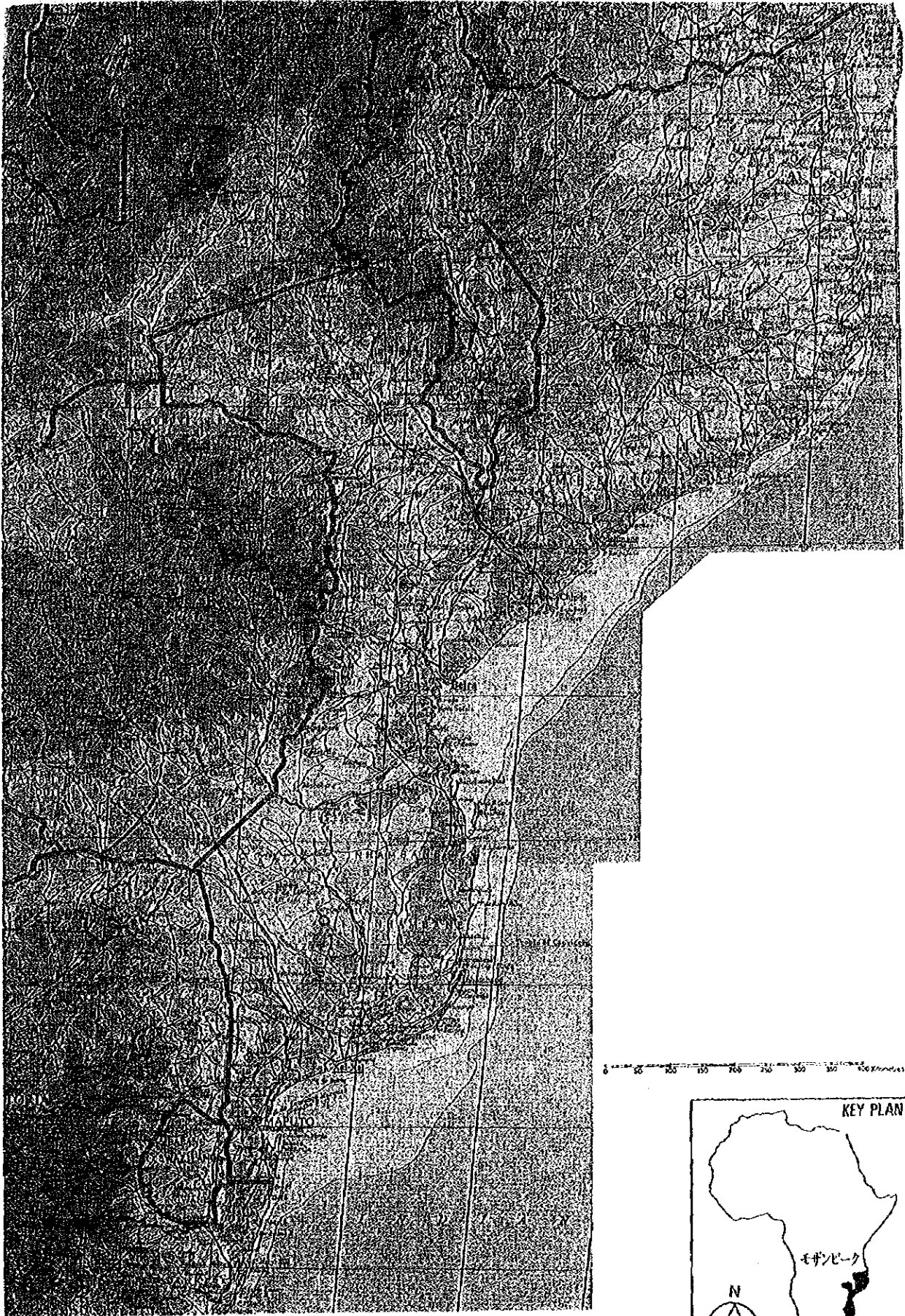
企画部長

鏡 武

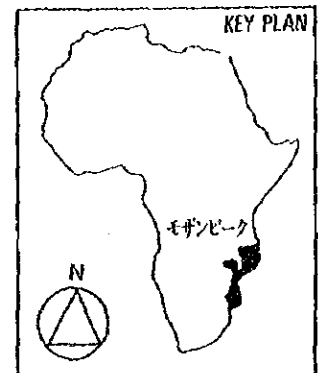
国際機関名略称

| | | |
|-------------|--|---------------------|
| A f D B | --African Development Bank | アフリカ開発銀行 |
| A f D F | --African Development Fund | アフリカ開発基金 |
| A s D B | --Asian Development Bank | アジア開発銀行 |
| C a r D B | --Caribbean Development Bank | カリブ開発銀行 |
| E C | --European Communities | 欧州共同体 |
| E E C | --European Economic Communities | 欧州経済共同体 |
| E D F | --European Development Fund | 欧州開発基金 |
| F A O | --Food and Agriculture Organization | 国際連合食糧農業機関 |
| I B R D | --International Bank for Reconstruction and Development | 国際復興開発銀行 (通称; 世界銀行) |
| I D A | --International Development Association | 国際開発協会 (通称; 第二世界銀行) |
| I D B | --Inter-American Development Bank | 米州開発銀行 |
| I E A | --International Energy Agency | 国際エネルギー機関 |
| I F A D | --International Fund for Agricultural Development | 国際農業開発基金 |
| I F C | --International Finance Corporation | 国際金融公社 (世界銀行グループ) |
| I G G I | --Inter-governmental Group on Indonesia | インドネシア債権国会議 |
| I L O | --International Labour Organization | 国際労働機関 |
| I M F | --International Monetary Fund | 国際通貨基金 |
| I T U | --International Telecommunications Union | 国際電気通信連合 |
| O E C D | --Organization for Economic Cooperation and Development | 経済協力開発機構 |
| O P E C | --Organization of Petroleum Exporting Countries | 石油輸出国機構 |
| U N C T A D | --United Nations Conference on Trade and Development | 国連貿易開発会議 |
| U N D P | --United Nations Development Programme | 国連開発計画 |
| U N E S C O | --United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization | 国連教育科学文化機関 |
| U N F P A | --United Nations Fund for Population Activities | 国連人口活動基金 |
| U N H C R | --Office of the United Nations High Commissioner for Refugees | 国連難民高等弁務官事務所 |
| U N I C E F | --United Nations Children's Fund | 国際連合児童基金 |
| U N I D O | --United Nations Industrial Development Organization | 国連工業開発機関 |
| U N R W A | --United Nations Relief and Works Agency for Palestine Refugees in the Near East | 国連パレスチナ難民救済事業機関 |
| W F P | --World Food Program | 世界食糧計画 |
| W H O | --World Health Organization | 世界保健機構 |
| W M O | --World Meteorological Organization | 世界気象機関 |

Mozambique



(c) Bartholomew. Extract from the Times Atlas of the World (Eighth Edition 1990).
Reproduced with permission. All rights reserved.



目 次

| | |
|------------------------------|----|
| I. 概 況 | 1 |
| II. 経済情勢及び経済・社会開発計画 | |
| 1. 経済情勢 | 6 |
| 2. 国家経済社会開発計画 | 9 |
| 3. 我が国との関係 | 10 |
| III. 援助実績と動向 | |
| 1. 援助の概況 | 11 |
| 2. 主要援助国及び国際機関の援助実績と動向 | 12 |
| 3. 我が国の援助実績と動向 | 15 |
| 4. ファクトシート | 20 |
| IV. プロジェクト配置図 | |
| 1. プロジェクト方式技術協力 | 23 |
| 2. 開発調査 | 24 |
| 3. 無償資金協力 | 25 |
| 4. 円借款 | 26 |

図表リスト

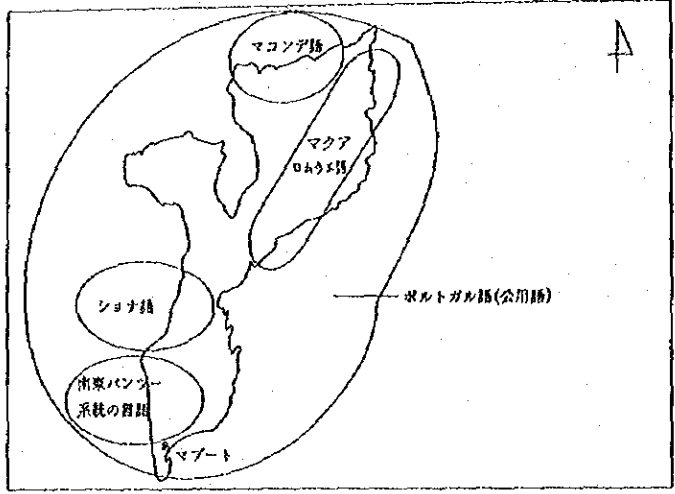
- 図- 1 マプトにおける平均気温・降水量
 - 図- 2 モザンビークの人口
 - 図- 3 言語
 - 図- 4 民族等
 - 図- 5 輸出入の変化
 - 図- 6 援助形態別ODA推移
 - 図- 7 援助主体別ODA推移
 - 図- 8 モザンビークへのODA
 - 図- 9 モザンビークへの技術協力
 - 図-10 モザンビークへの無償資金協力
 - 図-11 モザンビークへの借款
 - 図-12 我が国の対モザンビークODA実績
 - 図-13 過去10年間の年度別受入及び派遣人数
 - 図-14 分野別の研修員受入累積実績
 - 図-15 分野別の専門家派遣累積実績
 - 図-16 分野別の協力隊派遣累積実績
 - 図-17 分野別の調査団派遣累積実績
 - 図-18 分野別の無償資金協力累積実績
 - 図-19 分野別の円借款累積実績
-
- 表- 1 主要経済指標
 - 表- 2 主要産業別シェア
 - 表- 3 1990年度 国家予算

I. 概 況

| 1) 正式国名 | モザンビーク共和国 (Republic of Mozambique) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|--|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|----|----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|---------|-------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 2) 独立年月日 | 1975年 6月 25日 <旧宗主国> ポルトガル | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3) 政 体 | 共和制 <元首の名称> ジョアキン・アルベルト・シサノ大統領 (Joaquin Alberto CHISSANO) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4) 面 積 | 802千平方キロメートル (日本の約 2.1倍) (注1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5) 首 都 | マプト (88.3 万人、1986年) (注2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6) 気 候 | <p>気候は北部のモンスーン熱帯地域、中部の沿岸熱帯地域、南部の亜熱帯地域に区分される。乾季と雨季があり、雨季は10月～4月で、比較的高温である。</p> <p>図-1 マプトにおける平均気温・降水量</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平均気温(°C)</td> <td>26.0</td> <td>25.9</td> <td>25.2</td> <td>23.2</td> <td>21.0</td> <td>18.6</td> <td>18.5</td> <td>19.8</td> <td>21.1</td> <td>22.4</td> <td>23.7</td> <td>25.1</td> </tr> <tr> <td>降水量(mm)</td> <td>172.8</td> <td>140.0</td> <td>88.7</td> <td>60.3</td> <td>28.6</td> <td>16.0</td> <td>19.1</td> <td>16.2</td> <td>46.2</td> <td>65.1</td> <td>68.8</td> <td>86.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>出所 『世界各国要覧』 1991 東京書籍</p> | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 平均気温(°C) | 26.0 | 25.9 | 25.2 | 23.2 | 21.0 | 18.6 | 18.5 | 19.8 | 21.1 | 22.4 | 23.7 | 25.1 | 降水量(mm) | 172.8 | 140.0 | 88.7 | 60.3 | 28.6 | 16.0 | 19.1 | 16.2 | 46.2 | 65.1 | 68.8 | 86.8 |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平均気温(°C) | 26.0 | 25.9 | 25.2 | 23.2 | 21.0 | 18.6 | 18.5 | 19.8 | 21.1 | 22.4 | 23.7 | 25.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 降水量(mm) | 172.8 | 140.0 | 88.7 | 60.3 | 28.6 | 16.0 | 19.1 | 16.2 | 46.2 | 65.1 | 68.8 | 86.8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7) 人 口 | <p><総人口> 約 1,570万人 (1990年) (注1)</p> <p><人口成長率> 2.6% (1980~1990年) (注1)</p> <p><平均寿命> 男 45歳 女 48歳 (1990年) (注1)</p> <p>図-2 モザンビークの人口</p> <p>出所 World Tables 1991, The World Bank World Development Report 1981-1991 The World Bank</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

8) 言語 <公用語> ポルトガル語
 日常語としては、マクア・ロムウエ語が40%を占める他、様々な部族語が話される。

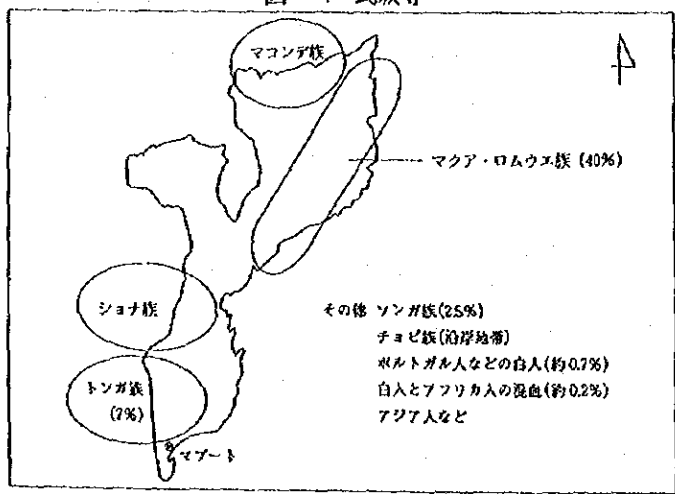
図-3 言語



出所 『モザンビーク人民共和国概要』 1989 外務省
 『アフリカを知る事典』 1989 平凡社
 『アフリカ年鑑』 1989-90 アフリカ協会

9) 民族等
 ほとんどがバントー系のアフリカ人である。他に、ポルトガル系の白人が10万人、混血が3万人、そしてアジア人が少数居住している。
 アフリカ人のうちではマクア・ロムウエ族(約40%)が最も多く、中央部のザンベジ川からタンザニアとの国境のロブマ(ルブマ)川までの沿岸地帯に居住している。北部にはタンザニア南部にまたがってマコnde族が居住している。南部にはジンバブエにまたがってショナ族が居住している。トンガ族は南アフリカ共和国のトランスバール州にまたがって居住している。チョビ族は沿岸地帯に居住している。

図-4 民族等



出所 『アフリカを知る事典』 1989 平凡社
 『モザンビーク人民共和国概要』 1989 外務省

| | |
|---------------|--|
| 10) 宗 教 | 宗教はキリスト教、特にカトリックが普及し、人口の約20%が信仰している。イスラム教徒は海岸地帯を中心に10%を占めている。そのほかの住民は伝統的な部族固有の宗教を守っている。 |
| 11) 文 化 | 国民の大半を占めるバンツー系では、少年の成人社会への加入式の儀礼には割礼が施され、さらに若打ちや断食など厳しい訓練が課せられる。 |
| 12) 教 育 | <p><義務教育> 6歳から7年間 (注3)</p> <p><就学率> (標準就学年齢人口に対する総就学者の比率)</p> <p>初等教育: 68% (1989年) (注1)</p> <p>中等教育: 5% (1989年) (注1)</p> <p>高等教育: 0% (1989年) (注1)</p> <p><識字率> 33% (1990年) (注1)</p> |
| 13) 保 健 ・ 医 療 | <p><医師一人当たりの人口> N.A.</p> <p><看護人一人当たりの人口> N.A.</p> <p>内戦の長期化が医療網にも打撃を与え、保健省によると1990年4月現在、978医療ユニット(1次ヘルス・ケア網の46%相当)が破壊され閉鎖となった。</p> |
| 14) 通 貨 | メティカル(1メティカル = 0.06円) (注4) (1992年4月27日現在) |
| 15) 会 計 年 度 | 不詳 |
| 16) 略 史 | <p>1629年 ポルトガルの支配権確立</p> <p>1667年 キリスト教とポルトガル文化の普及を開始</p> <p>1891年 英国との間で現在の国境を画定</p> <p>1900年前後 反ポルトガル蜂起続発</p> <p>1960~61年 ローデシア、ケニア、マラウイでそれぞれモザンビーク民主国家同盟(UDENAMO)、モザンビーク・アフリカ人国家同盟(MANU)、独立モザンビーク・アフリカ人同盟(UNAMI)と称するモザンビーク独立を目指す解放運動組織が結成</p> <p>1962年 三組織を統合したモザンビーク解放戦線(Frente Libertacao de Mozambique: FRELIMO)が、タンザニアのダルエスサラムにおいて結成</p> <p>1964年 FRELIMOは武力闘争を開始</p> <p>1969年 FRELIMOの議長モンドラーネが、ダルエスサラムにおいて小包爆弾によって殺害され、マシエルが後を継ぐ</p> <p>1974年4月 リスボンのクーデターで、植民地解放の方針を持つポルトガル軍事政権登場</p> <p>9月 FRELIMOとポルトガルとの間で独立に関する協定を締結。FRELIMOとポルトガルの代表からなる暫定政府が成立</p> <p>1975年 6月25日 首都の名称をロワ・マフスからマプトに改称</p> <p>1976年3月 南ローデシア(現ジンバブエ)との国境閉鎖</p> <p>1979年12月 同国境再開</p> <p>1984年 3月16日</p> <p>1985年9月 マシエル大統領、米国を公式訪問</p> <p>1986年10月 マシエル大統領死去(航空機事故)</p> <p>11月 シサノ新大統領就任</p> <p>1989年7月 FRELIMO大会にてマルクス・レーニン主義放棄</p> |

| | |
|--------------------|---|
| <p>17) 政 治</p> | <p><内政> モザンビーク政府とモザンビーク民族抵抗運動（MNR）の代表は、1990年7月8日からローマではじめての直接交渉を行い、同11日独立以来15年にわたる内戦の集結に原則合意したとの共同声明を発表した。交渉は7月に続いて11月にも行われ、双方は12月1日ローマで、政府軍を支援するためモザンビークに駐留するジンバブエ軍を、安全保障地帯へ集結させることに合意する和平協定に調印した。モザンビークの内戦は75年の独立直後から始まり、左派政権に対立するMNRが南アフリカなどの支援を得てゲリラ戦を展開、これまで住民ら約60万人が死亡、経済発展に大きな障害となってきた。今回の交渉はモザンビークのカトリック教会が仲介し実現した。</p> <p>また、モザンビーク人民議会は90年11月2日、複数政党制を基盤とする民主政治を導入する新憲法を採択した。新憲法は30日発効し、国名はモザンビーク人民共和国からモザンビーク共和国に、人民議会も共和国議会に名称を変更した。これで75年の独立以来15年間続いてきたモザンビーク解放戦線（PRBLIMO）による1党独裁体制に終止符を打った。このほか新憲法は市場経済、報道の自由、司法の独立などを明記している。</p> <p>シサノ大統領は新憲法発効に先立ち、MNRに対し改めて停戦を呼びかけ、91年に複数政党制ではじめて実施される大統領選挙、議会選挙に政党として参加するよう求めた。新政党制によれば分離主義や部族、宗教に基づく団体を除き、いかなる組織も1,100人以上の有権者の支持があれば政党として登録できる。</p> <p><外交> 外交政策としては非同盟の立場を堅持しているが、かつて独立闘争の際に支援を受けた旧ソ連、旧東ドイツを中心とする東側諸国との関係が深かった（1977年3月、旧ソ連との友好協力条約締結）。</p> <p>近年の著しい経済困難により、経済開発に西側諸国の支援を得るため、現在では積極的な西側接近外交を展開しつつあり、83年10月、マシエル大統領はポルトガル、英国、フランス等西欧諸国を歴訪し、また、85年9月に米国を公式訪問した（同大統領は86年には我が国を非公式訪問）。</p> <p>シサノ新大統領も87年5月英国、同10月米国及びフランスを、さらに88年5月には我が国を訪問するなど西側との協力関係強化に努力している。</p> <p>南アとの関係は、経済的には依存しているが、アパルトヘイト政策、反政府ゲリラMNRへの南ア支援等をめぐり政治的には対立している。84年3月に締結されたヌコマチ協定（不可侵協定）は、87年5月の南ア軍の襲撃等により形骸化していたが、88年9月、南アのボータ大統領がモザンビークを初めて訪問し、南アのヌコマチ協定の再活性化を約束、関係改善の兆しがみえ始めた。89年7月には、デクラーク国民民主党首・国民教育相（現大統領）が訪問、内戦集結を目指し意見を交換した。</p> |
| <p>18) 軍 事</p> | <p><国防予算> 113.09百万ドル（1990年推定） <兵 役> 選抜徴兵制（黒人のみ）、2年（女性を含む）、非常事態の間延長される。 <総兵力> 現 役：5万8,000人 （陸軍 推定4万5,000人 海軍 推定1,000人 空軍 7,000人） 準軍隊：5,000人 (注5)</p> |
| <p>19) 我が国との協定</p> | <p>不 詳</p> |

20) 援助要請のための国内手続き

各関係省庁・機関



国際協力省
Ministry of International Cooperation



各国大使館

出所 (注1) World Development Report 1992 The World Bank

(注2) 『イミダス』 1992 集英社

(注3) 『ユネスコ文化統計年鑑』 1989 原書房

(注4) 東京銀行調べ

(注5) 『ミリタリー・バランス 1991-1992』 1992 メイナード出版

II. 経済情勢及び経済・社会開発計画

1. 経済情勢

(1) 一般動向

肥沃な土地に恵まれた農業国である（GDPの約48%を農業が占める）が、大規模プランテーションによる輸出用換金作物（カシューナッツ、綿花、砂糖、サイザル麻、茶等）の生産に偏り、食糧自給率は極めて低い。洪水、早魃等の被害もあり、食糧事情は極めて悪化している。また、石油輸入に伴う外貨事情の悪化、南アフリカ共和国に対する経済的依存等の構造的問題を抱え、経済は極めて脆弱である。

このような経済の構造的問題及びMNRのゲリラ活動に加え、1980年代に入ってから早魃、原油価格の上昇、世界景気の後退という外的要因により経済は著しく停滞しており、80～86年にGDPは30%、輸出は75%、それぞれ減少するという状態に至った。

このため世銀・IMFの協力を得て、87～89年を対象期間とする構造調整政策としてEconomic Rehabilitation Program 87-89:BRP、Economic and Social Rehabilitation Program 90-91:ESRPを策定した。この結果、投入財・スペアパーツの輸入の増大などにより農業部門、製造業部門とも生産が増大し、87～89年のGDP実質成長率は年平均約5%となったが、対外累積債務問題は依然深刻である。90年は天候不良による農業の減産、湾岸危機による石油価格の上昇等により成長率は大幅に鈍化した。

表-1 主要経済指標

| | 1988年 | 1989年 | 1990年 |
|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| GDP (百万ドル) (注1) | 1,100 | 1,100 | 1,320 |
| 実質GDP成長率 (注2) | 5.7% | 4.0% | 1.5% |
| 一人当たりGNP (ドル) (注1) | 100 | 80 | 80 |
| 消費者物価上昇率 (注2) | 50.1% | 40.0% | 47.0% |
| 失業率 | N.A. | N.A. | N.A. |
| 貿易収支 (百万ドル) (注1) | - 602 | - 588 | N.A. |
| 輸出額 (百万ドル) | 104 | 92 | N.A. |
| 輸入額 (百万ドル) | 706 | 680 | N.A. |
| 経常収支 (百万ドル) (注1) | - 733 ^a | - 793 ^a | - 784 ^a |
| 対外債務残高 (百万ドル) (注1) | 4,406 | 4,737 | 4,718 |
| 外貨準備高 (百万ドル) (注1) | N.A. | N.A. | N.A. |

a : 世銀推定

出所 (注1) World Development Report 1990-92 The World Bank

(注2) Country Report : Tanzania, Mozambique No.1 1992 EIU

表-2 主要産業別シェア

| | 農 業 | 鉱 工 業 | サービス業等 |
|------------------------|-------|--------|--------|
| 産業別GDP構成比(1990) (注1) | 65% | 15% | 21% |
| 産業別成長率(1980-1990) (注1) | 1.3% | - 4.1% | - 3.2% |
| 産業別雇用 (1980) (注2) | 83.8% | 6.9% | 7.6% |

出所 (注1) World Development Report 1990-92 The World Bank

(注2) 『データブック』 1991 二宮書店

(2) 国家財政

7) 財政政策

政府は安定した経済成長による財政の建て直しのためにPolicy Framework Paper (PFP) 1991-93 の中でマクロ経済の目標を以下の6項目に挙げている。

- ・ 91-93年の経済成長率5%を達成。
- ・ 93年までにインフレ率を10%まで下げる。
- ・ 財政赤字のGDPに占める割合を減らす。
- ・ 92年までに為替相場の一本化を図る。
- ・ 為替相場及び貿易の自由化。

4) 政府財政

経済復興計画 (Economic Recovery Program: ERP) 開始の1987年には、通貨切り下げと価格自由化に伴い歳入も歳出も急膨張した。

この3年間の歳出の増加は歳入の増加よりも大きかったが、贈与援助の増加により赤字削減が行われた。

最近では貿易税が急速に増加、国防支出も拡大し続けている。

90年の予算は実質でのインフレーションを下げるため、歳入目標を2,400億メティカルとし、歳出はもっと大きい6,650億メティカルとしたが、実質では停滞状態にある。

表-3 1990年度 国家予算

| 歳入項目 | 1990年度 (百万メティカル) | 比率 (%) | 歳出項目 | 1990年度 (百万メティカル) | 比率 (%) |
|----------|---------------------|-----------|---------|---------------------|-----------|
| 1. 国庫収入 | 203,720 | 84.9 | 1. 経常支出 | 285,000 | 42.8 |
| ・ 所得税 | 38,560 | 18.9 | ・ 給料 | 48,400 | 16.9 |
| ・ 間接税 | 103,500 | 50.8 | ・ 国防・保安 | 105,300 | 36.9 |
| ・ 貿易税 | 52,300 | 25.7 | ・ 準国営企業 | 23,500 | 8.2 |
| 2. 非国庫収入 | 36,280 | 15.1 | 2. 資本支出 | 380,000 | 57.2 |
| 歳入合計 | 240,000 | 100.0 | 歳出合計 | 665,000 | 100.0 |

出所 『国別協力情報ファイル』 国際協力事業団

9) 金融政策

1987年から世銀などの支援を受け、資本主義的政策を導入した経済復興計画が始まり、政府による新規投資の中止、外貨導入、国際援助の積極的な呼びかけなど、新しい方向性も打ち出されている。

しかし、技術援助や消費物資など年間2億ドル相当の援助を行っていた旧ソ連、旧東ドイツからの支援がなくなったため暗い見通しとなっている。

国連からの緊急援助の他、サハラ以南のアフリカ国家としては最大の援助を米国から、またフランス、スウェーデンなどが債務免除に合意するなどの形で援助している。

(3) 国際収支

モザンビークの貿易構造は、貿易収支の大幅な赤字を、貿易外収支の黒字と外国援助により賄う形となっている。

政府の発表によれば、独立直後の1976年には経常収支は黒字を記録したものの、77年にはポルトガル人移民の帰国によるプランテーションの荒廃、早魃等から赤字となり、さらに78年には、ローデシア国境閉鎖による貿易外受取の減少等から、237百万ドルと大幅な赤字を記録するに至った。

MNRの活動は生産活動以上に国際収支に影響を及ぼした。MNRの交通インフラへの破壊活動は輸送サービス収入受取に影響を与え、80年代中頃には80年の水準の半分以下となった。海外出稼ぎ者からの送金は、南アフリカ鉱山での採用低下に伴い減少した。商品貿易は86年以降上昇したが、サービスや民間移転は改善せず、外国援助のみが経常収支を支えている。純政府移転の筆頭は贈与援助で、88年には358百万ドルであった。

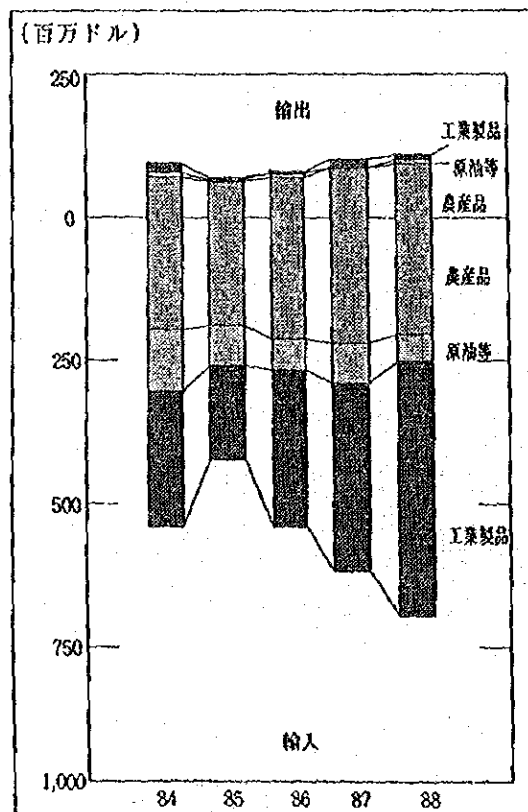
7) 貿易収支

MNRとの内戦は生産に直接打撃を与え、貿易網を破壊し、輸出に格別の打撃を与えた。輸出入とも1981~82年が最高で、商品輸出は81年の281百万ドルから85年には7.7百万ドルに、85年輸入は82年のレベルの半分に落ち込んだ。経済再建計画(ERP)の下では輸入が急速に増大したものの、輸出の伸びが僅かであったので貿易収支の赤字が成長し続けた。89年の輸出は輸入の13%に過ぎなかった。

1) 対外債務残高

モザンビークにとって対外累積債務問題は依然深刻であり、1990年度の債務残高は4,718百万ドルであった。

図-5 輸出入の変化



出所 World Tables 1991 The World Bank

2. 国家経済社会開発計画

(1) 既往の開発計画

| 計 画 名 | 期 間 | 概 要 |
|--------|-------------|---|
| | 1975-1981 年 | <p>マルクス・レーニン主義が国是と定められ社会主義的な政策が打ち出された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地、運輸インフラ、企業、社会サービスの国有化 ・81-90 年の期間を対象とする「10カ年計画」の立案 ・価格統制 ・国営農場の創設 ・固定為替相場制 <p>しかし、天候異変と内戦という経済外的な要因と経済開発の水準が極めて低いレベルに留まっていたことに加えて、独立に伴うポルトガル人の大量流出による極端な人材不足等、10カ年計画は遂行の当初において頓挫することとなった。</p> |
| 経済復興計画 | 1987-1990 年 | <p>当計画の目標は資本主義的政策の導入による経済の成長の回復と経済の不均衡の是正にある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地の私有化、公企業の民営化 ・小農の育成 ・価格統制の削減 ・為替レートの適正化、自由為替相場制への移行 <p>計画実現のために最も重要なファクターはMNRとの政治的解決であった。</p> |

(2) 現行の開発計画

モザンビーク政府は、経済・社会再建計画の実施にあたり、1992年から3年間における同計画の目的と、戦略のガイドラインをまとめた『経済・社会開発の戦略と計画1992-94』を発表した。

7) 目標・課題

国民の3分の2が直面している貧困を撲滅するための安定的経済成長

- ・貧困の減少
- ・各機関の機能開発
- ・公共支出管理の開発
- ・貿易為替制度の改正
- ・企業の再編成、民営化
- ・財政の建て直し

(3) 開発重点課題の概況

| 重点分野 | 主要政策 | 開発推進上の問題点 |
|----------|---|---|
| (1) 農業政策 | <ul style="list-style-type: none"> ・小農重視を継続しながらも資本主義的政策導入による包括的な農業政策を呈示 ①農産物の価格統制の除去と、買い上げ価格の引き上げ ②農産物と農業投入財の流通の自由化（政府系企業の独占への「対抗力」の創出） ③国営農場の機構改革と、土地など生産手段の民間移転 | <ul style="list-style-type: none"> ・農業生産は輸出用換金作物に偏り、食糧自給率は極めて低く、大半を食糧援助に依存している。 |
| (2) 運輸政策 | <p>現在の南アに依存した運輸体制からの脱却を図るため、モザンビーク経由の国際輸送路の確保、また自国の輸出入及び国内流通のため北部、中部、南部に位置するナカラ、ベイラ、マプトの3回廊の整備が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ベイラ回廊ハラレ・ルートは整備を当面の最重点とし、鉄道リハビリの早期完成と輸送体制の整備に努める。まず100万トン輸送目標にする。道路補修も補完的輸送路確保のため進める。 ②88年からはリンボボ鉄道線の軌道リハビリを中心にマプト回廊の輸送力の回復を図る。 ③84年より始まったナカラ回廊のリハビリは完了したが、治安状況の改善を図って輸送を再開する。 ④ベイラ回廊セナ鉄道ルートは警備方法を検討しつつ整備を行い、場合によってはベイラ寄りからのリハビリ部分開業も念頭に置く。マラウイのプランタイアからモザンビークのテテ経由でハラレに至る道路輸送については、治安状況の良化を図る。 | <p>南北に長い国土を陸上で有機的に結びつける輸送システムが確立されていないことから、沿岸航行の輸送力向上がモザンビーク政府の最重要課題の1つとなっている。</p> |
| (3) 工業政策 | <ul style="list-style-type: none"> ・工業設備能力復興に重点を置き、国際協力に基づく贈与や融資も工業生産回復に必要な原料やスペアパーツに重点を置いた。 ①新関税率の導入 ②密輸の弾圧 | <ul style="list-style-type: none"> ①需要の低下 ②労働力の不安 ③時代遅れの装置 ④低価格の輸入品との競争 |

3. 我が国との関係

我が国は1975年6月25日独立と同時に国家承認、77年1月外交関係を樹立した。

我が国はモザンビークからエビ等を輸入し（90年輸入額16.7百万ドル）、同国に自動車、漁船等を輸出している（同輸出額39.7百万ドル）。

Ⅲ. 援助実績と動向

1. 援助の概況

モザンビークは外交政策としては非同盟の立場をとるが、1975年の独立以来旧ソ連、東欧諸国との関係が強かった。内戦と経済混乱の中でマルクス主義から離れ、現在は積極的に西側諸国との関係を強化している。シサノ大統領は90年3月米国を公式訪問し、ブッシュ大統領と会談した。米国政府は開発と経済再建のため援助に合意した。また日本は独立と同時に国家承認し、77年1月外交関係を樹立した。

D A C諸国及び国際機関の対モザンビーク援助は、年々増加の傾向にある。

図- 6 援助形態別ODA推移

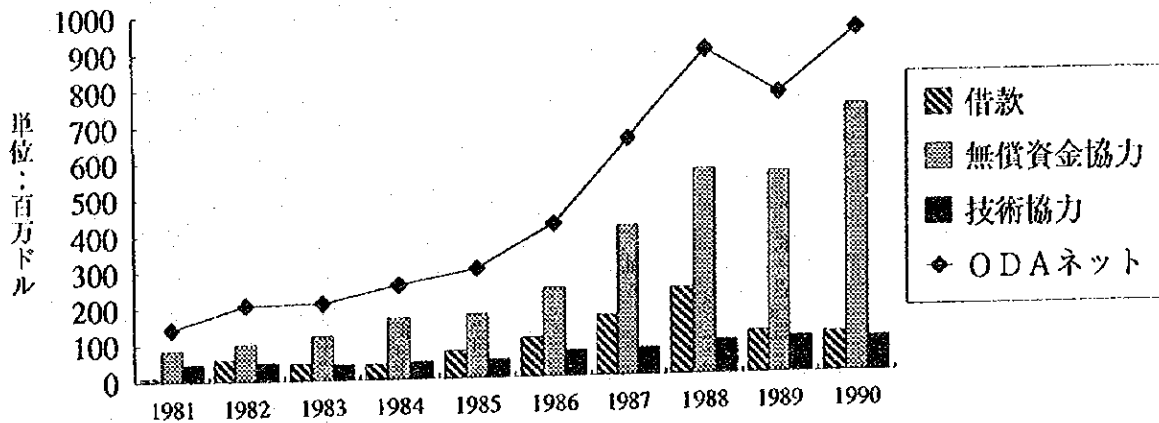


図- 7 援助主体別ODA推移

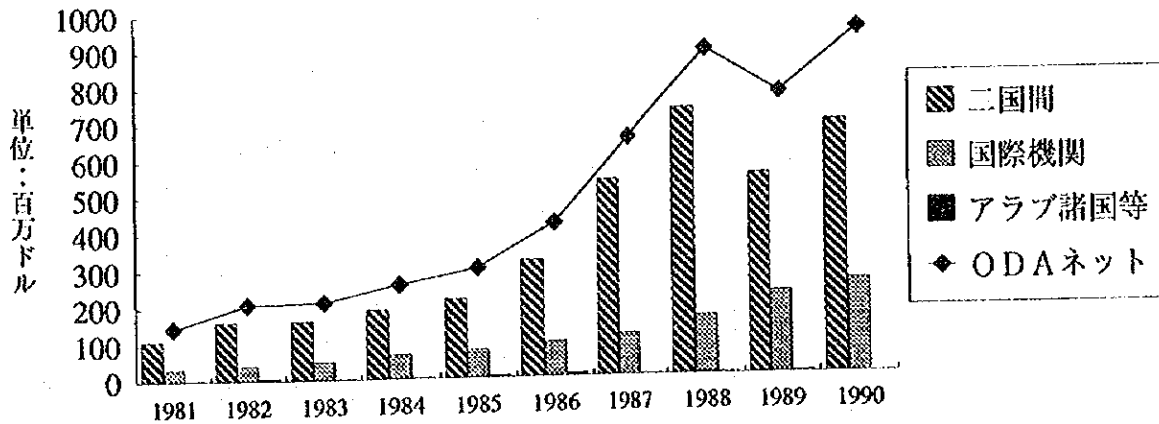


図- 6, 7 Geographical Distribution of Financial Flows to Developing Countries 1983-1992 OECD

2. 主要援助国及び国際機関の援助実績と動向

(1) 二国間援助

ア) DAC諸国

モザンビークに対するDAC諸国の援助は近年増加傾向にあり、1990年には690.6百万ドルに達し、サハラ以南アフリカにおいてタンザニア、ケニアに次ぐ第3位の受け取り国となっている。1990年度の主要援助国はスウェーデン（136.1百万ドル）、イタリア（106.2百万ドル）である。

(2) 国際機関等の援助

国際機関は1990年度支出純額で255.5百万ドルを供与している。主要援助機関は欧州共同体（EC）89.7百万ドル、国際開発復興銀行（IBRD）69百万ドルとなっている。

図- 8 モザンビークへのODA

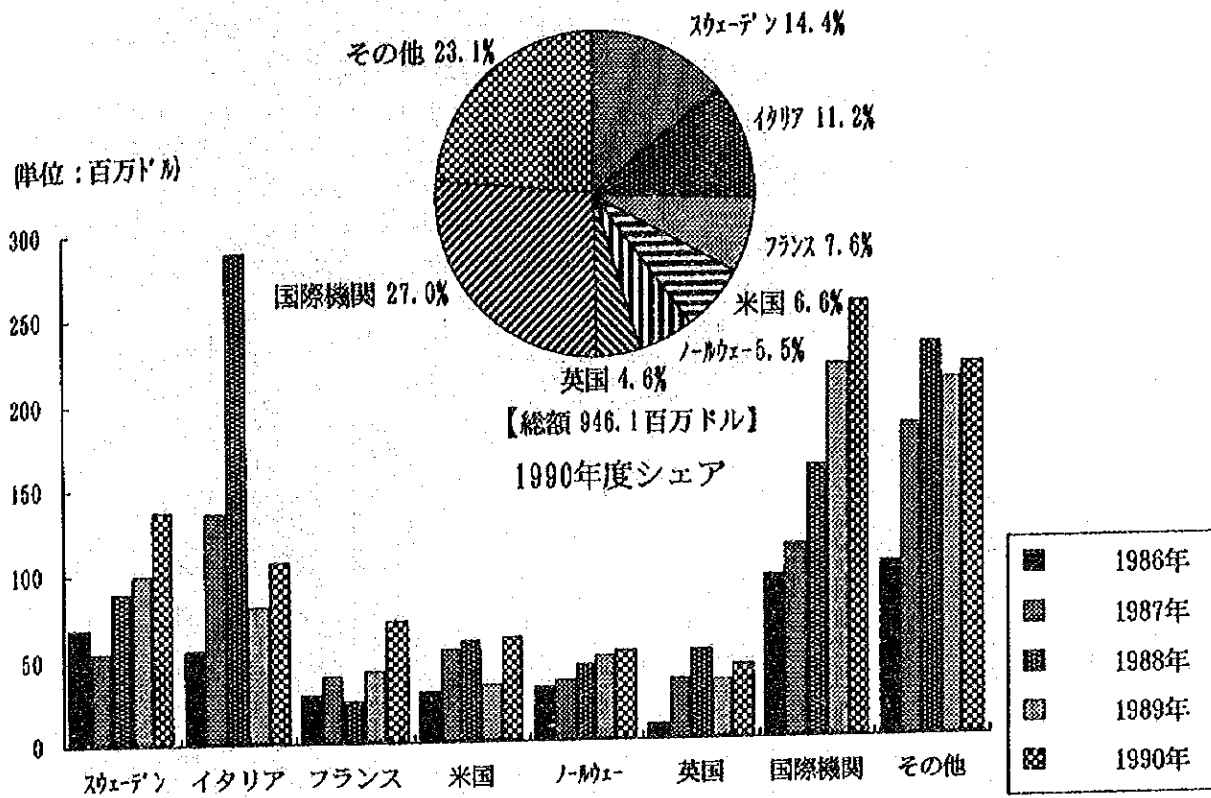


図- 9 モザンビークへの技術協力

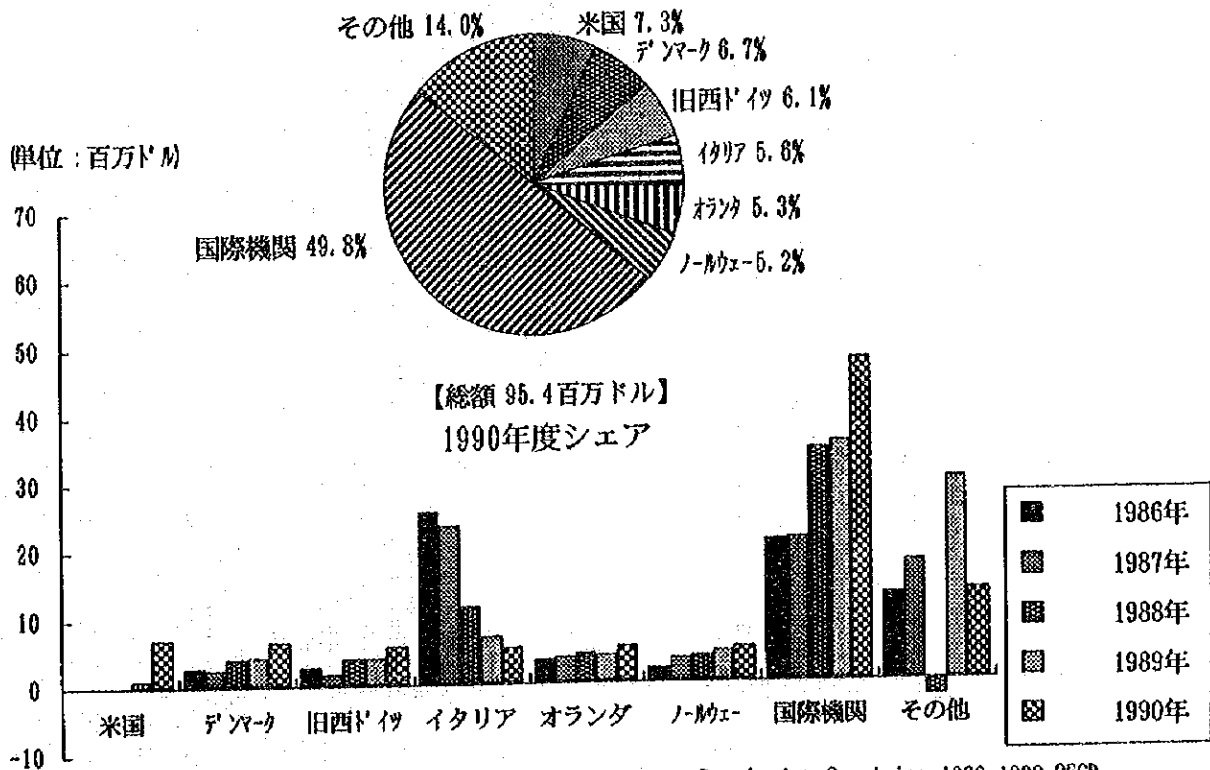


図- 8, 9 Geographical Distribution of Financial Flows to Developing Countries 1988-1992 OECD

図-10 モザンビークへの無償資金協力

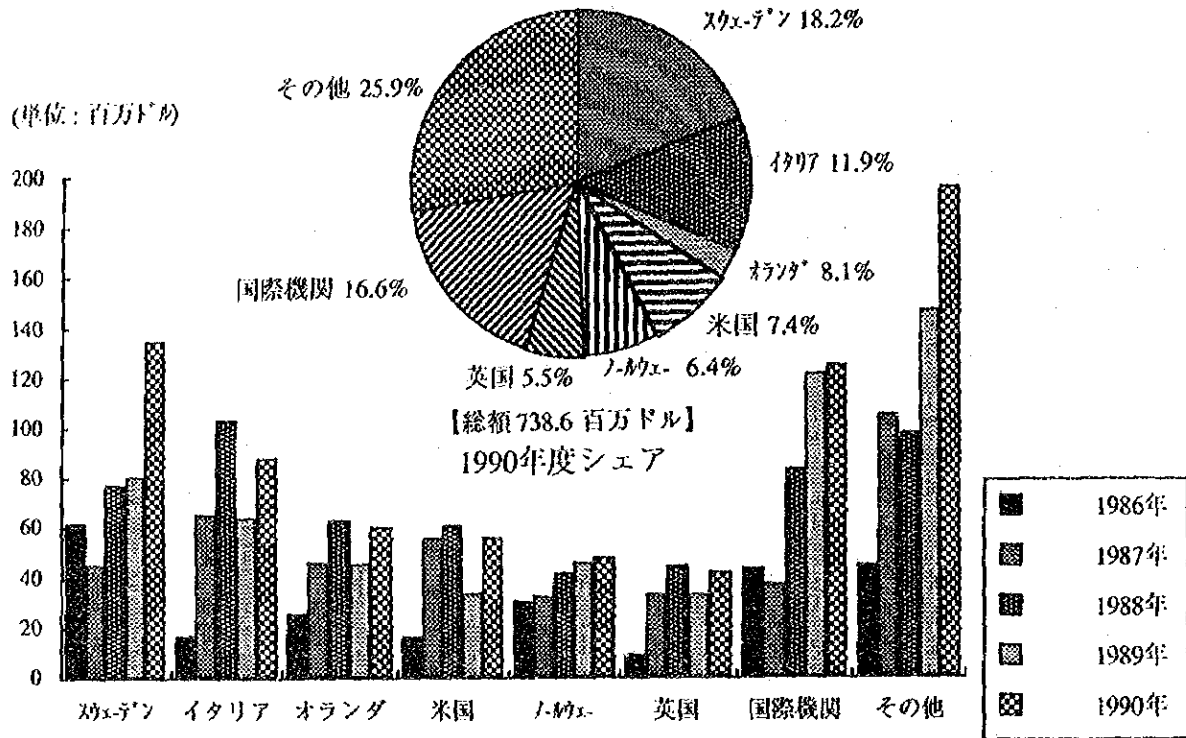


図-11 モザンビークへの借款

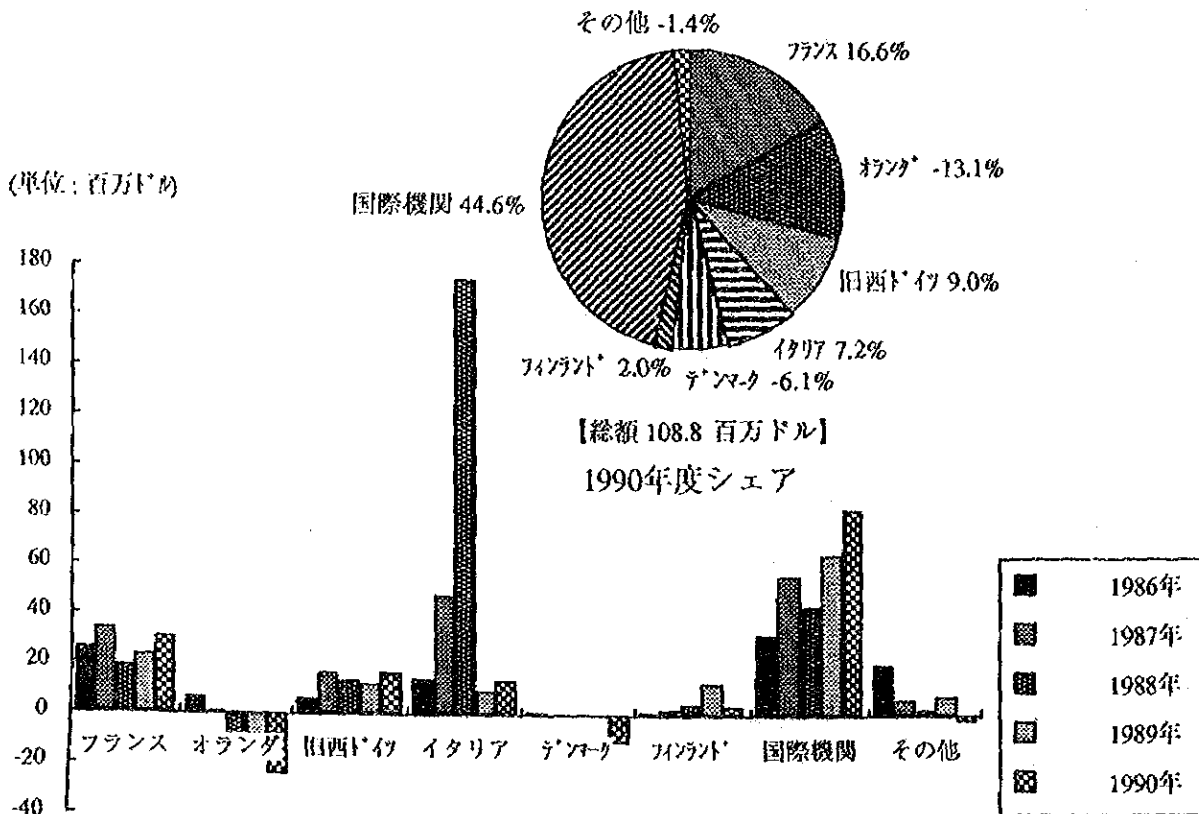


図-10, 11 Geographical Distribution of Financial Flows to Developing Countries 1988-1992 OECD

3. 我が国の援助実績と動向

(1) ODA 総論

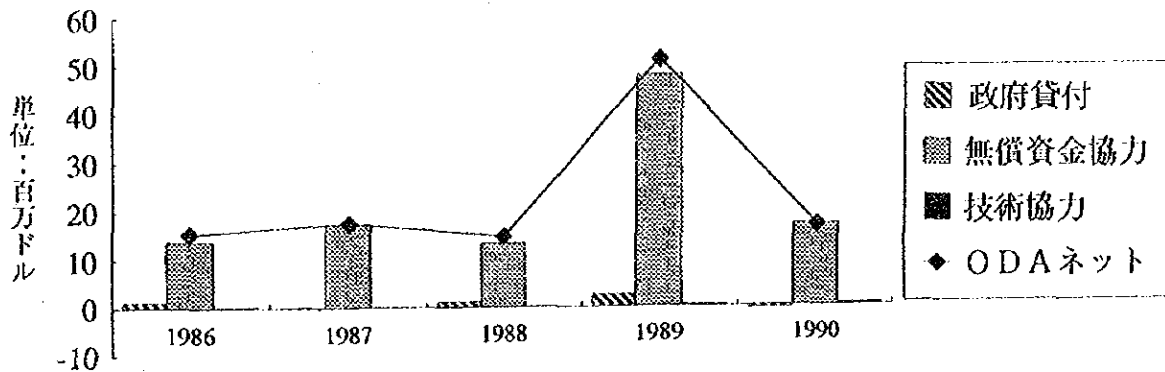
モザンビークは肥沃な土地に恵まれた農業国（GDPの約48%を占める）であるが、大規模プランテーションによる輸出用換金作物の生産に偏り、食糧自給率は極めて低く、洪水、早魃等の被害もあり、食糧事情は非常に悪い。

そこで我が国は、食糧援助、食糧増産援助を主とした無償資金協力を中心に実施しているほか、水産、保健、運輸・交通分野において協力している。また、1988年度及び89年度には、構造調整支援のためのノン・プロジェクト援助（合計40億円）を実施した。

(2) 技術協力

技術協力については、水産分野を中心に、1990年度累計で研修員受入25人、専門家派遣2人、調査団派遣37人、機材供与8百万円の実績となっている。

図-12 我が国の対モザンビークODA実績



出所 『我が国の政府開発援助』 1990 国際協力推進協会

7) 研修員受入

研修員受入については、計画・行政、公共・公益、農林・水産の分野を中心に行われており、1990年度までの累計で25人を受け入れている。

8) 専門家派遣

専門家派遣については、1990年度に農林・水産の分野で2人を派遣した。

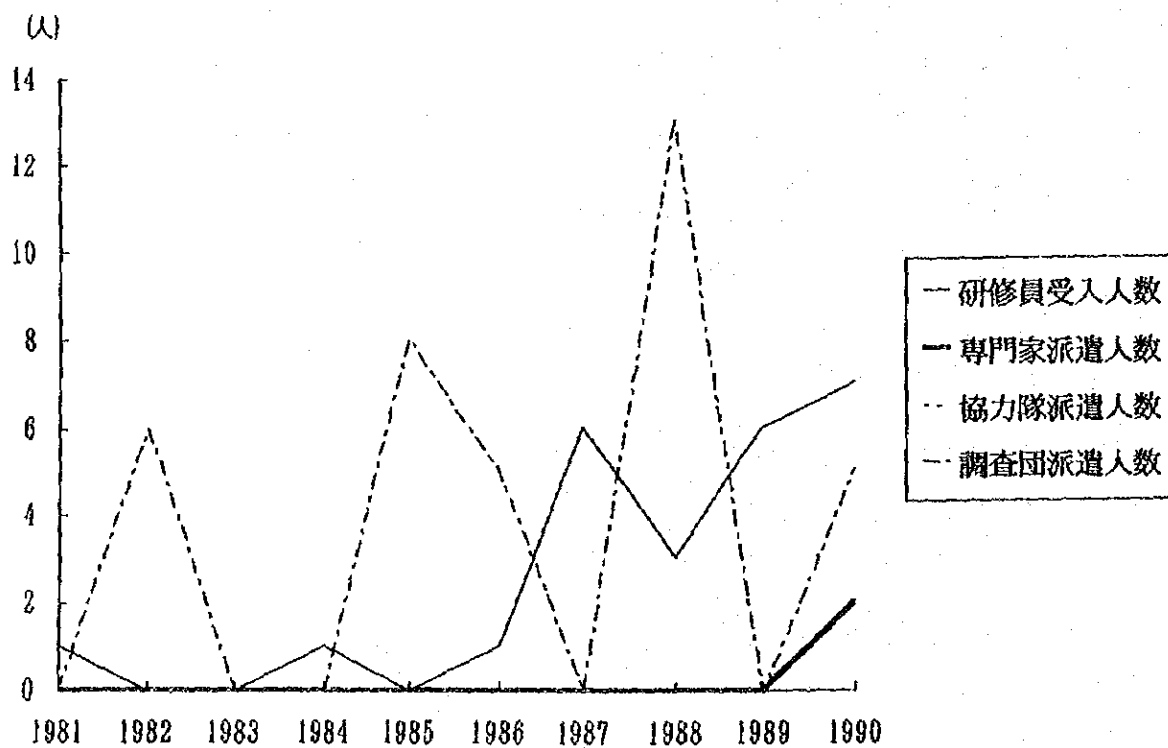
9) 青年海外協力隊

青年海外協力隊派遣については、1990年度まで行われていない。

1) 開発調査

開発調査については、1990年度まで行われていない。

図-13 過去10年間の年度別受入及び派遣人数



出所 『国際協力事業団事業実績表』 1991 国際協力事業団

図-14 分野別の研修員受入累積実績
(モザンビーク)

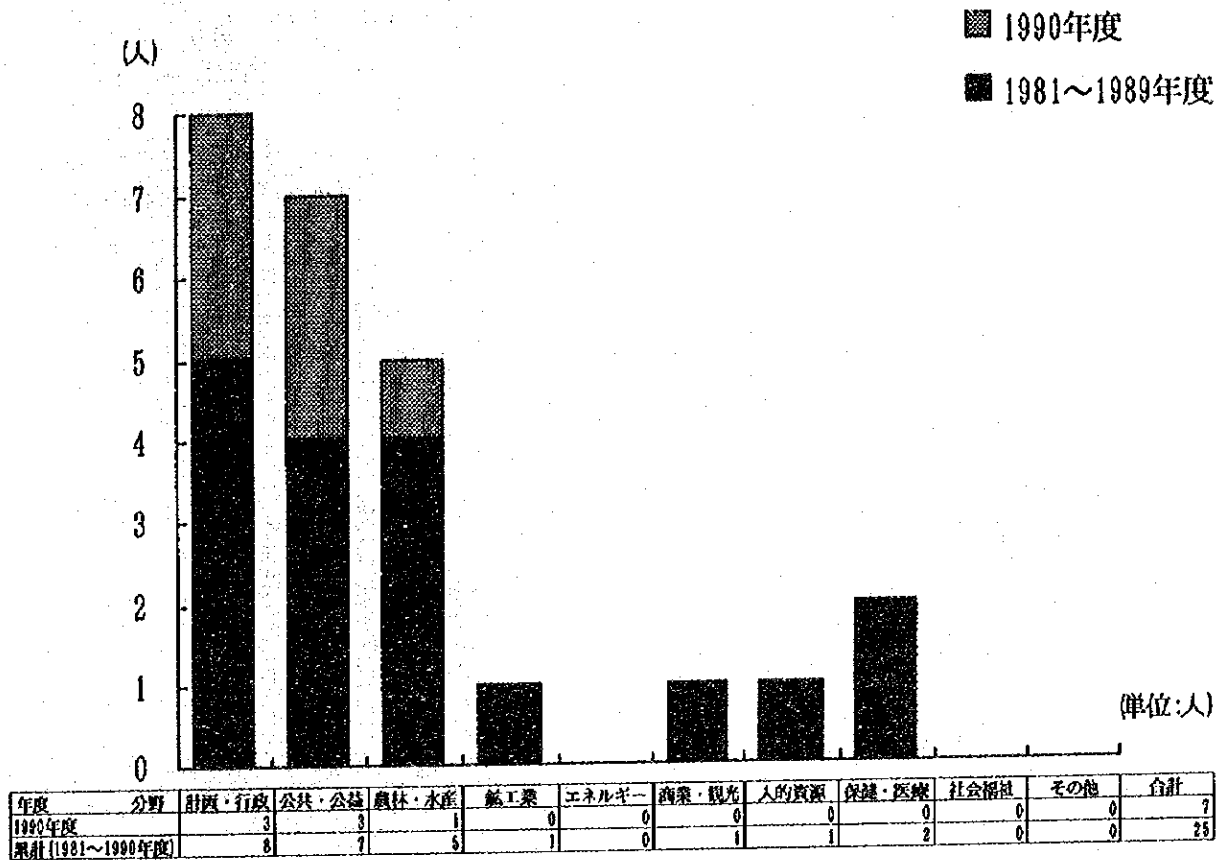


図-15 分野別の専門家派遣累積実績
(モザンビーク)

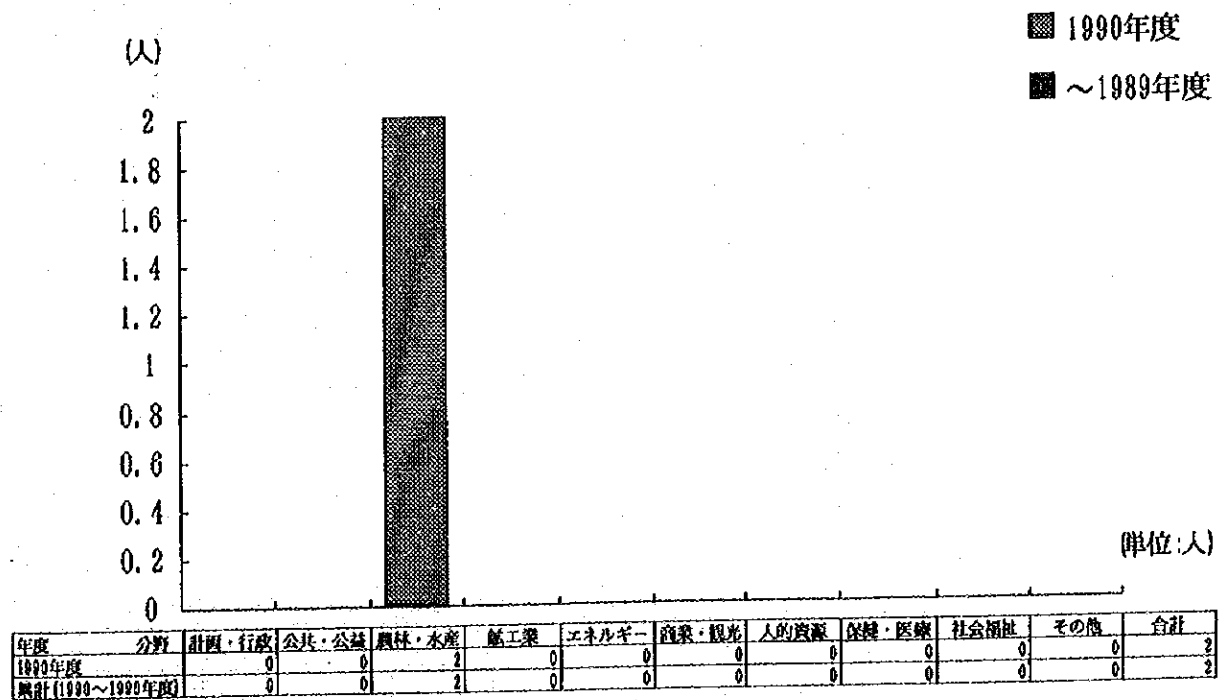


図-14, 15 出所 『国際協力事業団事業実績表』 1991 国際協力事業団

図-16 分野別の協力隊派遣累積実績
(モザンビーク)

1990年度まで派遣実績無し

(単位:人)

| 年度 | 分野 | 民間・行政 | 公共・公益 | 農林・水産 | 鉱工業 | エネルギー | 商業・観光 | 人的資源 | 保健・医療 | 社会福祉 | その他 | 合計 |
|-------------|----|-------|-------|-------|-----|-------|-------|------|-------|------|-----|----|
| 1990年度 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 累計(～1990年度) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

図-17 分野別の調査団派遣累積実績
(モザンビーク)



(単位:人)

| 年度 | 分野 | 民間・行政 | 公共・公益 | 農林・水産 | 鉱工業 | エネルギー | 商業・観光 | 人的資源 | 保健・医療 | 社会福祉 | その他 | 合計 |
|-----------------|----|-------|-------|-------|-----|-------|-------|------|-------|------|-----|----|
| 1990年度 | | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 累計(1982～1990年度) | | 0 | 1 | 36 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 37 |

図-16, 17 出所 『国際協力事業団事業実績表』 1991 国際協力事業団

(3) 無償資金協力

無償資金協力は、1988年度及び89年度に実施した構造調整支援のためのノン・プロジェクト援助に加え、水産分野、運輸・交通分野に対する援助も実施しており、90年度累計で約 219億円となっている。

(4) 円借款

円借款は1980～82年度に米の延払い輸出に対し40億円を供与したほかは実績は無い。

図-18 分野別の無償資金協力累積実績
(モザンビーク)

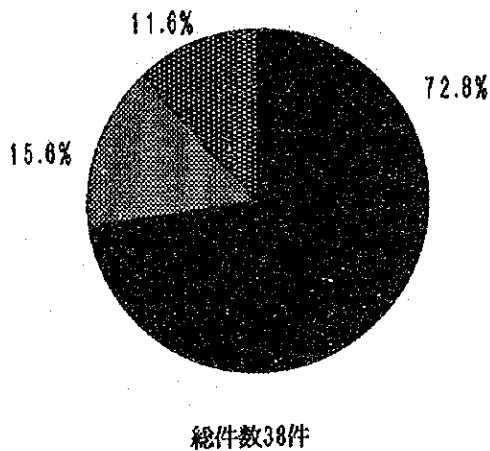


図-19 分野別の円借款累積実績
(モザンビーク)

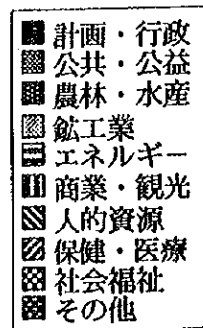
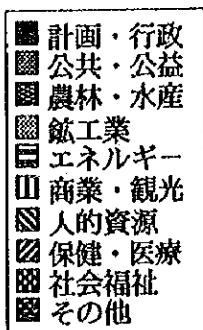
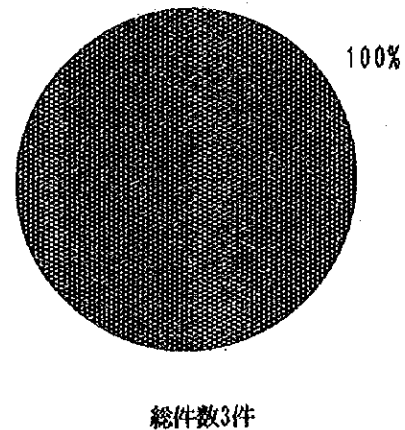


図-18, 19 出所 『国際協力事業団事業実績表』 1991 国際協力事業団

4. ファクトシート

(1) 技術協力実績

モザンビーク人民共和国 に対する国際協力事業団事業

| | | 累計実績 (1954年度～1990年度) | | 1991年度 実績 | |
|--------------------------|--|--------------------------|--|------------------|--|
| | | 257 百万円 | | 百万円 | |
| 技術協力経費 | | | | | |
| 援助活動促進費 | プロジェクト確認調査 プロジェクト形成調査 企画調査員 在外専門調査員 | 1 件 0 件 0 名 0 名 | プロジェクト確認調査 プロジェクト形成調査 企画調査員 在外専門調査員 | | 件 件 名 名 |
| 開発調査 | 1954年度開始～1990年度までの終了案件 1974年度開始～1990年度までの終了案件 | 0 件 0 件 | | (うち終了) | 件 |
| | | | | | 件 |
| 無償資金協力 無償資金貸付 技術協力 | 1974年度開始～1990年度までの終了案件 | 3 件 | | | 件 |
| | | | | | 件 |
| トコシヨコシ プロジェクト 技術協力 | 1954年度開始～1990年度までの終了案件 1974年度開始～1990年度までの終了案件 | 0 件 0 件 | | (うち終了) | 件 |
| | | | | | 件 |
| 個別専門家派遣 | 2 名 (農林業 100%) | | | 継続 2 名 新規 0 名 | 名 名 名 名 (長期) (短期) (長期) (短期) |
| | | | | | 件 |
| ミニプロ 研究協力 | 1977年度開始～1990年度までの終了案件 | 0 件 | | 継続 新規 | 件 件 |

(1) 技術協力実績

| | | 累計実績 (1954年度～1990年度) | | 1991年度 実績 | |
|----------|-------|----------------------|-----------------------------|-----------|-------------------|
| 単独機材供与 | 件 | 百万円 | | 1 件 | 9 百万円 (9 百万円) |
| 医療特別機材供与 | 件 | 百万円 | | | |
| 研修員受入 | 一般 | 25 名 | { 開発計画・行政 経済インフラ 水産 } | 6 名 | |
| | 青年招へい | 0 名 | | 6 名 | (うちC/P 0名) |
| | 国際機関 | 0 名 | | 1 名 | (うちC/S 0名) |
| | | | | 2 名 | (うち国際施設等 0名) |
| | | | | 3 名 | |
| | | | | 0 名 | |
| | | | | 0 名 | |
| 第三国研修 | 件 | 百万円 | 1977年度開始～1990年度までの終了案件 | | |
| 青年海外協力隊 | 名 | | | | |
| 移住事業 | | | | | |
| 開発投資 | 件 | 百万円 | | | |
| 緊急援助 | 件 | | 1985年度～1990年度実績 | | |

モザンビーク人民共和国 に対する資金協力要綱

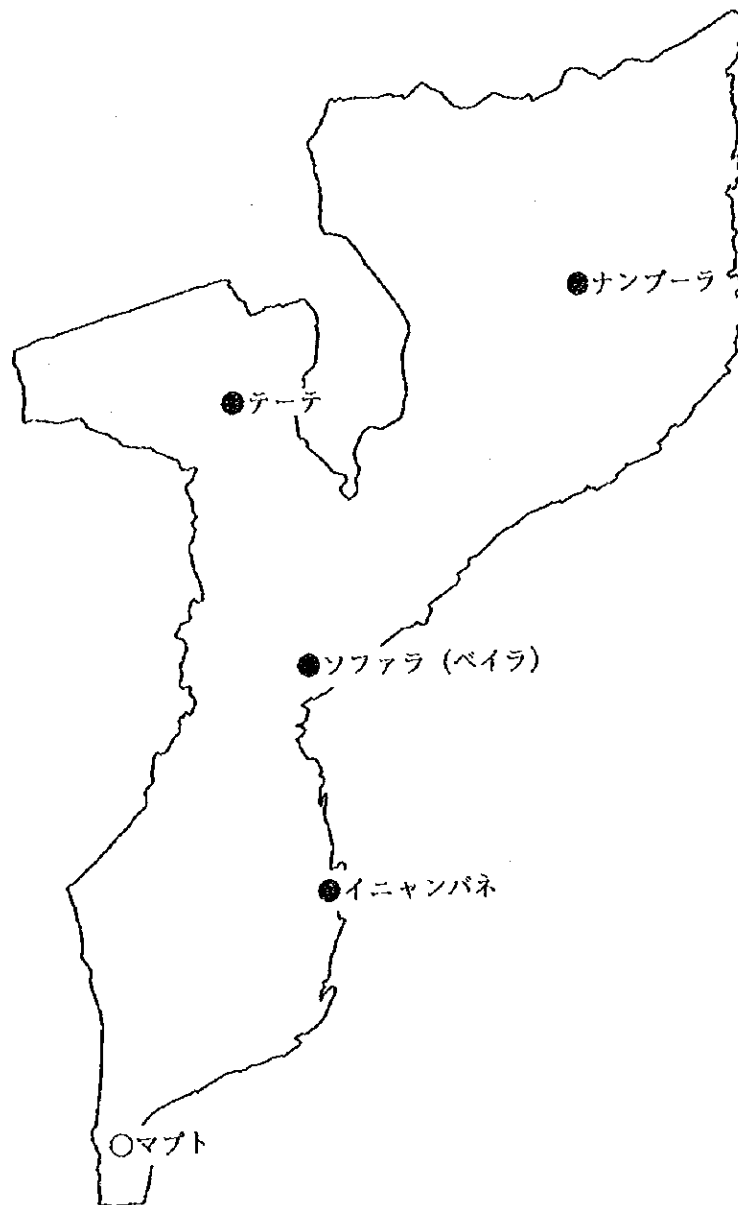
(2) 資金協力実績

| | 無償資金協力 | | 有償資金協力 | |
|-----------|---|--|----------------------------------|---------------------------------|
| | 主要案件名 | 金額(億円) | 主要案件名 | 金額(億円) |
| ～1985年度累計 | 19件 | 63.81 | 3件 | 40.51 |
| 1986年度 | 3件 1. 食糧援助 2. 食糧増産援助 3. キリマネ湖遊覧整備計画 4. 5. | 27.96 (7.00) (9.00) (11.96) () () | 0件 1. 2. 3. 4. 5. | () () () () () |
| 1987年度 | 4件 1. 食糧援助 2. 食糧増産援助 3. ベイラ団扇道路整備計画 4. 情報省に対する視察費用 5. | 21.41 (9.00) (9.00) (4.00) (0.41) () | 0件 1. 2. 3. 4. 5. | () () () () () |
| 1988年度 | 6件 1. 食糧援助 2. 食糧増産援助 3. ノンプロジェクト援助 4. 首都圏道路改修計画 5. 災害緊急援助(飢饉被災民救済) WFP経由 | 47.77 (5.75) (9.00) (25.00) (5.80) (1.50) | 0件 1. 2. 3. 4. 5. | () () () () () |
| 1989年度 | 4件 1. 食糧援助 2. 食糧増産援助 3. ノンプロジェクト援助 4. 漁獲物沿岸運搬船建造計画 5. | 36.48 (5.00) (9.00) (15.00) (7.48) () | 0件 1. 2. 3. 4. 5. | () () () () () |
| 1990年度 | 4件 1. 食糧援助 2. 食糧増産援助 3. ナンブロー州道路整備計画 4. 栄養改善計画 5. | 21.50 (5.00) (9.00) (4.50) (3.00) () | 0件 1. 2. 3. 4. 5. | () () () () () |

IV. プロジェクト配置図

1. プロジェクト方式技術協力

[1974~1991年度]

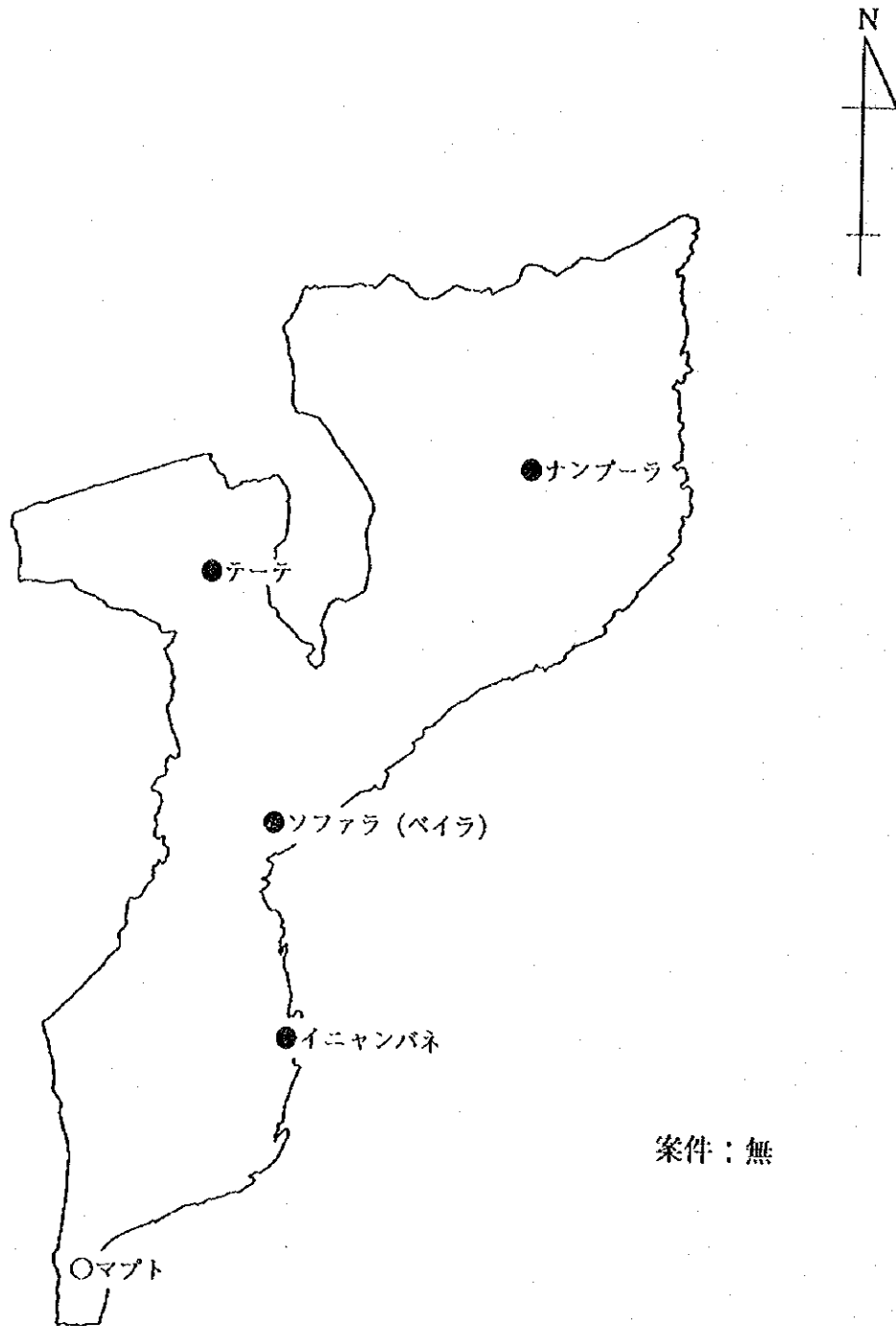


案件：無

注) ・記載の案件名はファクトシートによる
・◎印は、平成4年4月20日
現在実施中の案件を示す

2. 開発調査

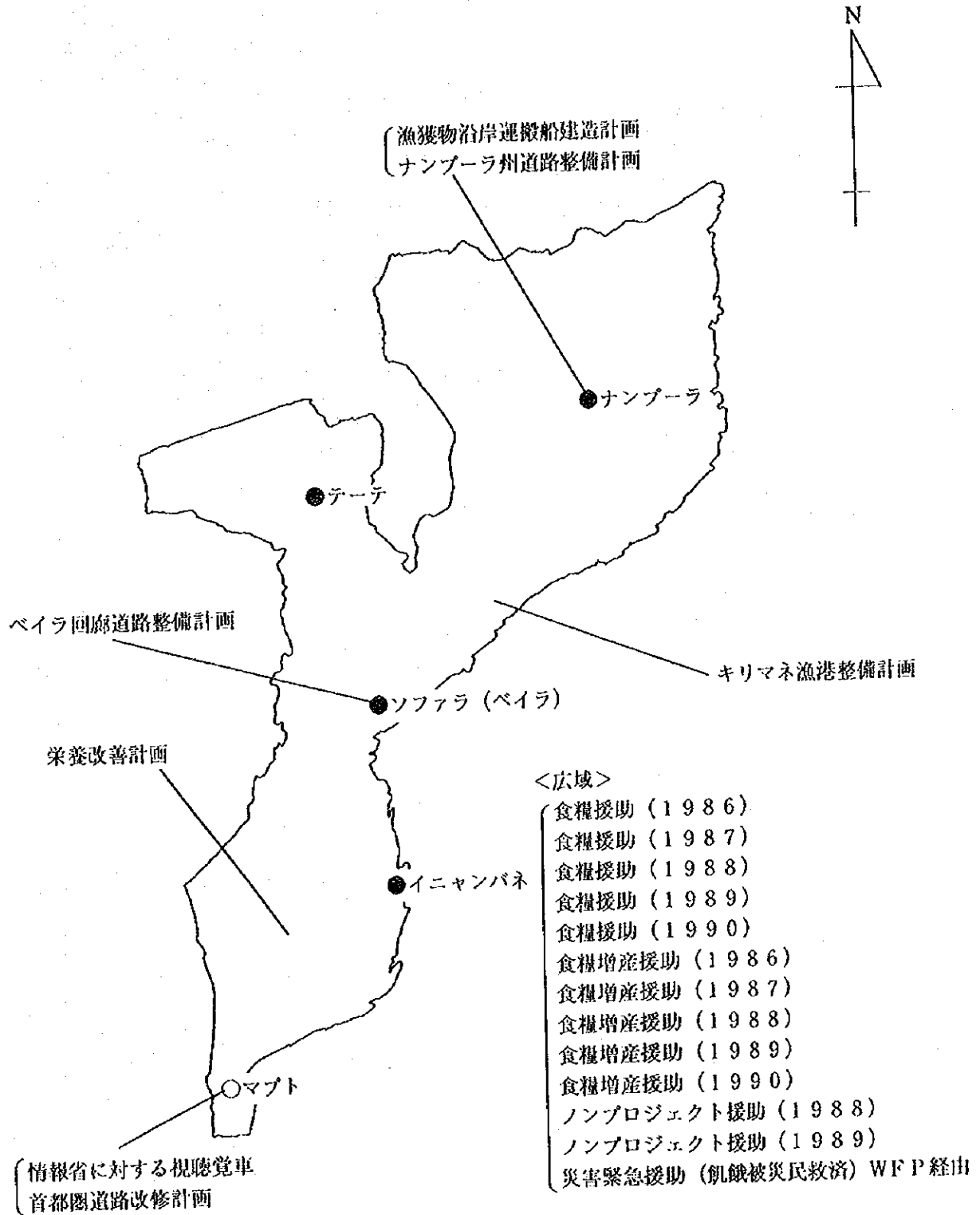
[1974~1991年度]



注) ・記載の案件名はファクトシートによる
・◎印は、平成4年4月1日
現在実施中の案件を示す

3. 無償資金協力

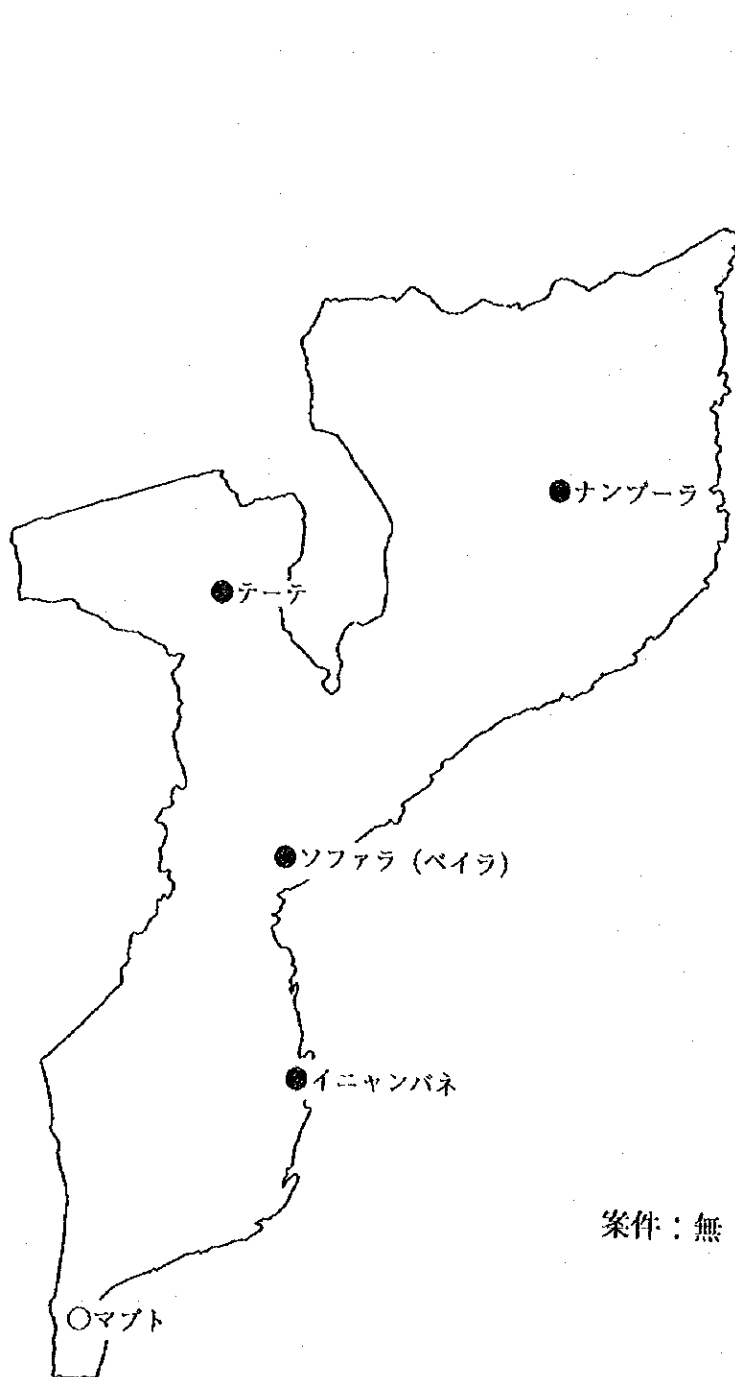
[1986~1990年度]



注) ・記載の案件名はファクトシートによる

4. 円借款

(1986～1990年度)



注) ・記載の案件名はファクトシートによる

〈参考資料一覧表〉

No. 1

| 項 目 | 資 料 名 | 発 行 |
|-------------------------|--|---|
| I. 概 況 | モザンビーク人民共和国概要, 1989 Country Profile : Mozambique, 1990 -91 アフリカを知る事典, 1989 世界年鑑, 1990 最新世界各国要覧, 6訂版 世界の国一覧表, 1991 任国情報 : モザンビーク, 1991 モザンビーク共和国概要, 1989 World Development Report, 1992 ユネスコ文化統計年鑑, 1989 東京銀行月報, 第44巻 第6号 1992 ミリタリー・バランス, 1992 イミダス, 1992 | 外務省 E I U 平凡社 共同通信社 東京書籍 世界の動き社 国際協力事業団 外務省 The World Bank 原書房 東京銀行 メイナード出版 集英社 |
| II. 経済情勢及び経済・社会 開発計画 | モザンビーク人民共和国概要, 1989 セクター別・特定課題別 援助指針策定のための基礎調査, 1989 モザンビークの経済社会の現状, 1983 Country Profile : Mozambique, 1990 -91 アフリカ年鑑, 1989-90 アフリカを知る事典, 1989 朝日旅の百科, 海外編34 1982 世界年鑑, 1990, 1992 最新世界各国要覧, 6訂版 我が国の政府開発援助, 1991 | 外務省 国際開発センター 国際協力推進協会 E I U アフリカ協会 平凡社 朝日新聞社 共同通信社 東京書籍 国際協力推進協会 |
| 2. 国家経済社会開発計画 | セクター別・特定課題別 援助指針策 定のための基礎調査, 1989 モザンビークの経済社会の現状, 1983 Country Profile : Mozambique, 1990 -91 我が国の政府開発援助, 1991 | 国際開発センター 国際協力推進協会 E I U 国際協力推進協会 |
| 3. 我が国との関係 | 我が国の政府開発援助, 1991 任国情報 : モザンビーク, 1991 | 国際協力推進協会 国際協力事業団 |

| 項 目 | 資 料 名 | 発 行 |
|------------------------|---|---|
| Ⅲ. 援助実績と動向 1. 援助の概況 | 世界年鑑, 1991 | 共同通信社 |
| 2. 主要援助国及び国際機関の援助実績と動向 | 我が国の政府開発援助 下巻, 1991 Geographical Distribution of Financial Flows to Developing Countries, 1992 | 国際協力推進協会 UNDP |
| 3. 我が国の援助実績と動向 | 我が国の政府開発援助 下巻, 1991 国際協力事業団年報, 1991 国際協力事業団実績表, 1991 ファクトシート, 1992 | 国際協力推進協会 国際協力事業団 国際協力事業団 国際協力事業団 |
| 4. ファクトシート | 実績資料全般 | 国際協力事業団 |
| Ⅳ. プロジェクト配置図 | ファクトシート, 1992 | 国際協力事業団 |



●モザンビーク共和国